

平成 26 年度 真名川ダム・九頭竜ダム水源地域ビジョン推進委員会 議事概要

○日時：平成 27 年 2 月 18 日(水) 16:30～18:00

○場所：結とぴあ（多田記念大野有終会館）302 号室

○議事：(1)平成 25 年度 真名川ダム・九頭竜ダム水源地域ビジョン推進委員会 議事概要
(2)平成 26 年度の各機関の取り組み状況
(3)平成 27 年度の活動について

1. 平成 25 年度 真名川ダム・九頭竜ダム水源地域ビジョン推進委員会 議事概要について

平成 25 年度 真名川ダム・九頭竜ダム水源地域ビジョン推進委員会 議事概要について事務局より説明を行い、特に意見はなかった。

2. 平成 26 年度の各機関の取り組み状況

平成 26 年度の各機関の取り組み状況についてそれぞれの機関から説明を行った。

※補足説明 取り組み状況資料説明（事務局）

「8. 真名川ダム弾力的管理」の補足。今年から放流試験が本格運用試行期間となり来年度から、本格運用することとなっている。今年度のデータをお示しするところであるが、去年までは「真名川ダム弾力的管理検討委員会」がこの「真名川ダム・九頭竜ダム水源地域ビジョン推進委員会」の前に開催されていたが、諸事情により、開催が平成 27 年 4 月以降の開催となってしまう、今年度のビジョンでは取水などの状況報告のみとさせていただく。

以下各機関の取り組み状況について主な質疑 応答は以下のとおりである。

- (1) 1. 森と湖に親しむ旬間行事「日帰り留学」麻那姫湖青少年旅行村（中島公園）会場（真名川ダム会場同時開催）

2. 日帰り留学「第 2 回」

- ・ 今年度新しく始められた「日帰り留学」は、第 2 回が雨天のため取りやめになったのは非常に残念であったが、参加予定者の 33 名はどのように募集をしたのか。（委員長）

→(事務局)参加者の補足説明として、33 名の内訳は大人 1 名子ども 32 名で、上流域については大野市内の各小学校に、下流域については永平寺町の小学校に声を掛けさせていただき応募をした。下流域の永平寺町に声を掛けさせていただいたのは、県の教育委員会を通じて、永平寺町には九頭竜川が流れており、九頭竜川に子どもたちが慣れ親しんでいるのではないかというご助言をいただいたもので、町内の小学校に募集をさせていただいた。

- ・「日帰り留学」は、2回目は雨天で中止になって残念だったが、1回目の「日帰り留学」にも永平寺町からたくさん子どもたちが参加し、喜んでいて。下流域の永平寺町の小学校の子どもたちが上流へ行ったということであるが、今後の提案として、永平寺町の下流域にも親水場所が多くあるので、上流域に住んでいる子どもが永平寺町の下流域へ行くイベントなども催して、上下の交流を深めていただきたい。（委員）

→(事務局)上下流の連携ということで、26年度は上流域に下流の親御さんや子どもたちが来て行われたが、今後「日帰り留学」を実施していくにあたって、上流の大野市の子どもたちが下流域へ行って上下流の交流を深めるのも大切かと事務局では考えている。

(2) 4. ダムカードの配布とダムマニアとの連携

- ・今、国土交通省と水資源機構などがダムカードを作ってダム周辺で配布しているが、ダムマニアの方々は国、県を問わず、ダムの情報を知りたがる。福井県のダムの一覧表を作るなどすると私たちも説明しやすいので、もう少し国と県が連携してダムの情報について考えてほしい。（委員）

→(事務局)ダムカードについては、国と県の交互の連携というのは当然、大切必要なものなので、今後密接な連携を取っていこうと考えている。

(3) 7. ダム湖の自然環境保全の取り組み

- ・26年度はダム湖において、国土交通省、県の有志の方と漁協で、特定外来生物に指定されているコクチバス、親 136 尾 産卵床 63 か所 ウチダザリガニ、52 尾を駆除した。
- ・これまでは、新聞等で報道すると反対にバス釣りの人による、コクチバスの放流を促進しないか不安があった。しかし昨年、釣り客により九頭竜川の支流でコクチバスを釣った、リリースせずに食した、という情報があり、これからは釣り客とも連携して釣りあげたら持って帰るということを基本として、関係者のみでない、外来種の駆除対策が必要と考えている。
- ・バス釣りのためにキャッチ&リリースをされては困る。26年度に「本願清水イトヨの里」の生息池でコクチバスの稚魚が見つかった。これはおそらく人為的放流と考えられる。この様なことが起きているので、今月末、2月28日には市民に環境、生態系について理解を持ってもらう啓発活動等について話し合うため、関係各位の参加をお願いして、シンポジウムが開かれる。
- ・今のところコクチバス、ウチダザリガニは河川では見つからない。ダム湖のみの駆除活動は効果があるかどうかかわからないが、関係機関と協力しながら 27

年度以降も続けていきたいと思っている。皆さんの協力をお願いしたい。(委員)

→(事務局) 九頭竜ダムでは今は関係者だけで駆除を行っている。先程の話の中で、釣り人等と連携して駆除を行うという話があったが、看板を設けるとか、釣り客が釣ったコクチバスを入れるポストを設ける等を考えている。こういった住民、釣り客、子どもたちとの連携など、今後の体制について関係機関と来月にも会合をひらき、検討を行いたい。

- ・ 大野市漁業組合でも年 1〜2 回、外来種の対策(捕獲)をしている。平成 24 年に九頭竜川で 1 尾、平成 25 年に真名川で 1 尾コクチバスを捕獲しており、追跡調査をしているがその後今のところ見つかっていない。今後も調査を進めていきたいと考えている。
- ・ 「イトヨの里」の話があったが、私どももイトヨの生育場所で、年 1〜2 回、ウグイなどの雑魚捕獲作業の実施をしている。今、外来魚が見つかったという話を聞いて、28 日の会合には大野市漁協も積極的に参加して、対策についても検討していきたい。(委員)
- ・ 大変深刻な問題なので、産官学あげて連携しながら駆除していく必要がある。

宜しくをお願いしたい。(委員長)

(4) 21. ノーム自然環境教育事務所(奥越前まんまるサイト)

- ・ ノーム自然環境教育事務所は他団体と色々連携しながら自然活動教育を行われているが、国や県・市への要望等はあるか。(委員長)

→(関連団体) 個人の事務所なので、大々的なことはできないが、こじんまりとしたツアーなどを行っている。大野市と協力して行うこともあり、補助等が出るので、無料で受講できるようになることが魅力である。親が熱心でなくても子どもが参加したい場合は参加することができるようになる。連携をすることで、より安全で、敷居の低い活動ができるのでぜひこれからも連携して行っていきたい。

- ・ ぜひ連携して活発な活動を続けてほしい。(委員長)

(5) 18. NPO 法人九頭竜自然学校

- ・ 水の大切さを学んだり、川遊び等、学校の子どもの対象とした活動を、平日に総合学習としてできないか大野市の方に教えてほしい。我々は体験学習を 26 年度は土日に行っている。(委員)

→(委員) まず、ご報告をお聞かせいただき、みなさんの活動にお礼を申し上げる。

平日の通常の時間であったら総合学習として、遠足、社会見学というような色々な形で、行うことができる。土日は、PTA 活動や子ども会活動等で行えると考えている。詳しくは現場の教員でないとわからないが、現状では小学校3、4年生が「ふるさと学習」で水の事やごみについて社会科の学習で取り組んでいる。

→(関連団体) 大野市の富田小学校に3年ほど前から声を掛けさせていただいて、助成事業があったので、川遊びなどを行っている。その時の先生が熱心な先生で、今の子どもたちはふだん川遊びをしていないということで、やらせていただいている。

- ・ 熱心な先生を見つけてお願いするのが一番だ。(委員長)

3. 平成27年度の活動について

平成 27 年度の活動について事務局から説明を行った。

- ・ (事務局) 2 点ほど追加説明。

①コクチバス駆除対策について

- ・ 今後どのようにしていくか。来年度すぐ会合を実施して関係者の是非を伺いたい。

②ごみ対策について

- ・ 今、自治体や大野市では流域のごみ対策をそれぞれ連携せずに行っている。これからは「きれいな大野市・きれいな九頭竜川・きれいな真名川」という理念のもとみんなでまとまって行っていきたいので、話し合いの機会を持ちたい。

- ・ コクチバスの駆除について、これから関係機関と連携して進めていくことに関し、来年度において事務局はどの様に考えているか。(委員長)

→(事務局) 具体的な中身は決まっていないが、こんなことを行っていったいいかどうか等、事務局が提案して、関係機関と議論していきたい。

→(委員) 県の水産課、内水面漁連等、関係機関が引き続き今行っている活動を強化していくとともに、良心的な釣り客、子ども等と一緒に環境、生態系について考え、外来種駆除の幅広い取り組みとしていくことは大賛成である。

- ・ ごみ対策については、市内か、ダム周辺のみか。(委員長)

→(事務局) すでに行われている地区も含めて、今まで地域ごとに行っていたものを、来年度以降に、一丸となり一つの理念のもとで行い、最終的には水系一

環としたものにしていきたい。

→（委員）九頭竜川流域で大きな理念のもと、是非やっていきたい。

- ・ 各団体の横の連携を持って進めてもらいたい。（委員長）

委員長まとめ

- ・ 様々な取り組みが毎年活発に行われていて素晴らしい。特に子どもたちのために自然を活用したエコな取り組みというのは、これから 21 世紀の主流となるものではないかと思っている。そのためにも、広報、関係機関の連携は大変大事なことだと思うので是非その 2 つを肅々と行い、活発な活動を進めてほしい。（委員長）

委員から

→（委員）各団体の皆さん色々な形で良くやってくれている。引き続きお願いをしたい。また取り組みをしていく中で、各団体の工夫・改善も必要となると思う。

また、九頭竜川水系で美化活動を行うということは大事なことだ。

一点、大野市としてお願いしたいのは、ダムの建設によって防災、安全、農地、安定的な水が確保できたが、失ったものも大きいので、並行して委員会で進めてほしい。

今、真名川ダム管理支所等にご協力いただきながら、ダム周辺の自転車専用道路の建設を行っている。27 年度には大事な部分が出来上がる、合わせて本川から水をひき子どもが遊ぶことのできる親水施設も考えているので、自転車専用道と一緒にビジョンの中で取り上げていただきたい。

来年の 3 月には間伐材を利用した、木質バイオマスの発電試験運用が始まる。天然エネルギーの循環ということで水源地域をしっかりと守っていく大きな力になると思う。教育の場としても大野市で提案していこうと思うが、ビジョンの中でも活用していただきたい。

また国土交通省の進めている重点「道の駅」「（仮称）結の故郷」が、国道 158 号沿いに平成 32 年を設置目標としてこれは今までにない考え方のもとに大規模につくっていただく。これもビジョンの方でアイデアなり知恵を出して、大いに利用していただきたい。

人口減少時代であるがこういったものが自治体、地域を支えると思うので、今後ともよろしく願いたい。

4. 閉会

- ・ これを持ちまして閉会といたします。ありがとうございました。

以上